

未来を切り拓く会計事務所へ贈るビジネス情報誌

創刊号



No.1

経営パートナー

「バックオフィス全般の一元化をめざす free に共感」

アタックスグループ

「freeはNPO法人の
会計業務を
大きく変えられる」

河村浩靖公認会計士税理士事務所

「クラウド会計が
新たな需要を生む
可能性に期待。」

カウシード税理士法人

「立場は違っても、ころざしは同じ。
freeで繋がるビジネスパートナー」

野口五丈公認会計士事務所
野口 五丈 様

× Kenpal株式会社
飯田 貫 様

「経営パートナー」発刊にあたって

freee は、2016年3月19日でプロダクトリリース3周年を迎えました。

僭越ながら、この3年間で約60万事業所のお客様に freee をご利用いただき、クラウド会計ソフトでは2年連続でシェア No1 となることが出来ました。

これもひとえに皆様のご支援の賜物であり、厚く御礼申し上げます。

freee は「スモールビジネスに携わるすべての人が、創造的な活動にフォーカスできるよう」といったビジョンを掲げております。そして、スモールビジネスに携わるすべての人とは、ご利用いただくユーザー様のみではなく認定アドバイザーとしてご登録いただいている会計事務所様も含まれていると考えております。

こういった背景の元、会計事務所様とのパートナーシップは会社の最重要事項として取り組んでおり、昨年12月に「リアルタイム

経営パートナー」という会計事務所様向けのコンセプトも掲げさせていただきました。

これは、顧問先様へリアルタイムなデータに基づいた経営の意思決定サポートを行うというパートナーシップのことを指し、会計事務所様のサービスの効率化と高付加価値化を同時に実現する考え方となります。

今回発刊する「経営パートナー」では、顧問先様に価値を提供されている会計事務所様の事例や、それをサポートする機能紹介、そして freee と連携しているパートナー企業様のご紹介等を行っております。

より顧問先様に価値を提供いただくために、freee は認定アドバイザー様を全力でご支援させていただきたいと考えております。

今後とも認定アドバイザーの皆様には、ビジネスパートナーとして、スモールビジネスと一緒に応援させていただきたくお願い申し上げます、発刊のご挨拶とさせていただきます。

freee 株式会社 代表取締役

佐々木大輔



INDEX

INTERVIEW 01 アタックスグループ 創業期のベンチャー企業の会計も、年商30億の中堅企業再生も freee で。	P.03
INTERVIEW 02 カウンシード税理士法人 freee で、業務効率化と分業化を促進。全国各地から新規の問い合わせも増えています。	P.07
INTERVIEW 03 河村浩靖公認会計士税理士事務所 NPO 法人を会計面から支援することで、社会的意義のある活動を支えていきたい。	P.09
“クラウド ERP” コンセプト紹介	P.11
PARTNERS INTERVIEW 01 株式会社ジャパンネット銀行 ジャパンネット銀行と freee との提携は、スモールビジネスのお客様や、会計事務所へ大きな相乗効果をもたらす。	P.15
PARTNERS INTERVIEW 02 Square 株式会社 決済から会計まで、売り上げ集計作業も自動化。サービスの親和性もたらす、さらなる「バックオフィスの最適化」。	P.17
Special Cross Talk 野口五丈公認会計士事務所 / Kenpal 株式会社 立場は違っても、こころざしは同じ。freee でつながるビジネスパートナー。	P.19
会計 freee 新料金プランのご案内	P.21
freee 3年間の歴史	P.22

抽選でオリジナルグッズが当たるアンケートはがきを同封

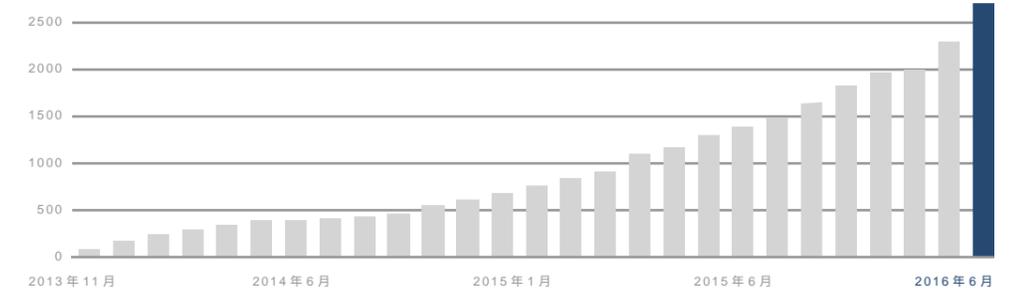
freee とともに価値を高め、顧問先を導くパートナーへ



freee 認定アドバイザープログラムは、2,700 会計事務所が参加する業界唯一の「リアルタイム経営パートナー」支援プログラムです。

2016年6月現在、プログラム開始から2年半で
認定アドバイザー数が2,700事務所突破

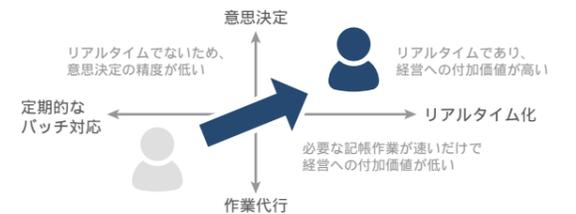
2,700事務所!!



freee 認定アドバイザープログラムで
顧問先の「リアルタイム経営パートナー」へ

リアルタイム経営パートナー

経営者とともに会計データのリアルタイム化を行い
経営者の意思決定を支えるパートナー



クラウド会計ソフト シェア No.1 !!

全国各地、47 すべての
都道府県の会計事務所導入いただいています



デジタルインフォメーション調査 (2016年2月時点)





株式会社アタックス
代表取締役 / 公認会計士

丸山 弘昭 様



アタックス税理士法人
税理士

丹羽 亮介 様



創業期のベンチャー企業の会計も、 年商 30 億の中堅企業再生も freee で。

interview by freee

freee を導入したきっかけは？

丸山様：きっかけは、社会変革的なビジネスの立ち上げを目指すベンチャー起業家からの相談でした。彼は「僕が freee を使って会計をやりますんで、少し助けてくれませんか。」と言うんです。わたしは料金云々以前に彼のビジネスに賛同、共鳴しましたのでそれを受諾。その彼が freee のソフトを持ち込んできたんです。それから、社内の税理士に事情を伝えたところ、こころよく引き受けてくれて freee のことを勉強してくれました。利用し始めて数ヶ月たった頃わたしのところへ来て freee の感想を述べるんです。「一週間おきのバージョンアップを行っていて改善速度がすごく早い。可能性はどきよりも大きく秘めています。5 年後 10 年後にはトップクラスのソフトとな

る可能性があります。」まず、そう言うんですね。他の会計ソフトも使っていますが、一週間おきの改善というのはすごいな、と思いました。次に、「会計の知識がない方でも試算表がつかれるという視点で開発を行っている。他社ソフトにはない画期的な構想です。」さらには、「最先端の IT ソフト機能を備えています。携帯からでも入力が可能とか、場所を選ばず入力できる、チャットのリアルタイムでの質問機能がある、それから証憑書類のスキャナー保存が可能、モバイルで撮ったデータを自動仕訳で転換することもできる。」と、そんなことを次々言うてくるんです。それを聞いたわたしも、使ってみた本人が言うのだから間違いはないんじゃないかと思ったんです。そんなことがあった後に、中堅企業の案件でも freee を導入する機会が出てきました。

freee を使って 年商 30 億の 中堅企業の再生をめざす

基準の統一化で自計化を試みるも、
続くいばらの道

丹羽様：その中堅企業は、再生案件として当社が担当することになりました。売上が約 30 億、グループ 7 社、従業員 500 人程度の中堅企業で、産業的には停滞傾向にありました。グループ間では内部取引が多く、企業それぞれで決算期が異なり、自計化している企業とそうでない企業が混在し、システムも統一されていない。そのため、会社の正確な業績の把握ができないような環境にありました。そこで、まず月次業務管理の手法として、

多大な内部取引や会計期間の統一化を図ろうとしました。しかし、独立した会社で連結を組もうとするとなかなか難しく、基準を統一してもうまくいかない。そこで、会社を合併させてひとつにすることになりました。合併した会社の中には 2 社の優良な会社があったため、そこをグループ全体の管理部門としてグループ全体の自計化を試みました。しかし、いざ始めると、旧来のシステムをそのまま引きずってしまい、なかなかうまくいきません。自計化できる部門を管理部に据えたものの、もともとグループ会社それぞれの仲が良くないため情報伝達が悪い。また、管理を紙ベースで行っていたことから起こる現場と管理部での膨大な重複作業の発生。さらには、従来のシステムをそのまま利用していたため、マスターが異なるシステム間でデータのやり取りをする場合は再度入力が必要になること。月次すらなかなか集計できない状況のまま、業務効率は一向に改善しませんでした。

問題はシステムにある？

年商 30 億の中堅企業は freee で再生できるのか

丹羽様：組織や仕組みを統一しても業務

効率は改善しない。それはシステムに問題があるのではないかと考えました。そのためシステムを探すものの再生会社はお金を出せない。採算性を考えるととても多機能なシステムを組む予算もない。限られた予算の中でどんなシステムがあるかを探していた時に、クラウド会計が最近その分野において急成長していることを知ります。クラウド会計ソフトにもいくつかあるわけですが、今回は現場の人に使ってもらわねばならないという条件があったため、現場のユーザーにとってわかりやすく、すぐ使えることが重要でした。そこで freee を軸に、会計システムを構築していくことにしたのです。ただ、導入にあたって心配事がありました。まず、30 億の売上のある会社の取引量をこなせるのかどうか。ネット環境、パソコンのスペックが低いとスピードが遅いのではないかと。そもそも、われわれの習熟スキルで使いこなせるのか、というようなことです。しかし、実際に使ってみたところ、取引量は全く問題なし。ファイルボックスに大量にデータを入れたときの動作性など、多少気になるところはあるけれど、今まで紙で処理していたことに比べると圧倒的に作業効率は向上しました。

会計知識のない現場担当者も使えて、
バックオフィスの仕事が変わった

丹羽様：操作性については、はじめは教わらないといけないけれど一度やりかたを決めると会計知識のない人でもとてもスムーズに使えるようになります。なぜなら、freee の画面操作は、クリック操作とウェブ検索で行うためです。いままでの会計ソフトでは帳面をつけるという感じだったのが、会計帳簿をつけているという入力ではなく、検索なんですね。リストがあってリストから検索してそれと合うものを見つけてくる。予め数字は入っていますから、それをペタッと貼りこんで、全部クリック操作でいける。ひととおり使い方がわかった後は、ユーザーにとって非常に使いやすいんです。丸山様：会計知識がなくても使えるというところがポイントだね。きっかけのところで話したベンチャーの彼はインターネットやマーケティングのスキルは非常に高いけれど、会計の知識はゼロ。それでも freee を使って自分で会計ができています。ベンチャーの立ち上げのときには、会計に詳しい人材を採用することは難しく、もし雇っても採算はとれない。でも、そんな専門家がいなくても freee があれば十分にできる。そして会計事務





所側でもちゃんと決算ができていく。創業期のベンチャーにとっても freee は非常にいいと思います。

丹羽様：いままでは管理部が何から何までも面倒を見なければならなかった。現場の様式にあわせていかなければならなかった。しかし freee を導入したことで、現場の人が前処理をしてくれるようになります。その結果、バックオフィスの仕事が、いままでの作成する仕事から、チェックする仕事へ切り替わりました。

導入にあたっての苦労は？結果は？

丹羽様：システムの変更になるため、マスターの移行を行う必要があり、データの形ができるまでの試行錯誤がありました。ただ、現場サイドは新しいことをやりたくないで、通常はシステムの変更には抵抗がありますが、freee は現場サイドにもわかりやすいのでさほど抵抗はありませんでした。

丸山様：freee の導入前は本当に大変だった。しかし、導入してお客様も巻き込んだ形で合理化ができた。これは、わたしたちにとって大変メリットがあり、お客様にとってもメリットがあります。

中小・中堅企業のために これからの クラウド会計ソフト、 そして会計事務所の役割

バックオフィス全般の
一元化をめざす freee に共感

丸山様：中小・中堅企業の方々をバックオフィスの単純作業から開放して、本来やるべきことをやるための創造的な時間を創る。バックオフィスの最適化という freee のコンセプトには非常に共感しています。最初のコンセプトがよいと、それは広がりをもっていきます。新たな顧客のニーズを拾って、どんどん、どんどん機能が増幅していく。バックオフィスも同様に広がりをもっていくと思います。そして、バックオフィスが企業内だけではなくて企業外部とネットワークする。よって、バックオフィス最適化には、完成形はなく、広がり続けていく。いわば、社会全体を巻き込んでいくネットワークキングです。当然ムダな動きがなくなるのでエコシステムにもなる。昨今話題にのぼる在宅勤務とか、女性のワークライフバランスとか、子を育てながら働

くとか、どんどん、どんどん最適化が社会的につながっていく。それをわたしは社会変革と言っているのですが、そういった可能性を freee は秘めているのではないかと思います。

丹羽様：これまでも業務の効率化といった小手先の話はありました。しかし、バックオフィスを最適化するという発想自体がこれまでとは違います。管理部において業務を集中してやるのではなく、ひとりひとりやる、分散分業していく、遠隔でもやれる環境をつくっていく。いままでのような業務改善、単にテンプレートをつくりましたといったレベルから急激に飛躍したなという印象です。

優秀な中小・中堅企業の不足を担う
クラウド会計ソフト

丸山様：中堅企業、売上数十億～数百億の優良なオーナー会社。人、モノ、金、情報の中で、この層に一番欠けているものは何かというと、人なんです。優秀な人は一流企業や将来性のある会社へ行ってしまうがちです。そこをわたしたちが、社会的な分業システムの中で担ってあげたいのです。わたしたちがビジネスパートナーとしてお客様のバーチャルの組織図の中に位置づけられて、経営者が困ったときには相談され、わたしたち自身が会社の状況を見ながらご提案していく。



まだ経営者の気づいていない問題点を提案していく。そのような領域へとわたしたちは入って行きたいと考えています。そして、そのときこそ freee のようなソフトが必要なのです。もう1つは、スモールビジネスや創業期のベンチャー企業に対して、そんなに高くない料金できちっと支援をしてあげたい。そうしたニーズにも freee を使っていきたい。freee はスモールビジネスも中堅企業も、両方に使えることがわかりました。だから、本当にお困りになっているところの悩みを freee のようなクラウド会計ソフトを使って解決したい。そのように考えているんです。

丹羽様：大企業であれば、情報システム担当者が最新の情報をキャッチしますが、中小・中堅企業ではそれができません。では、わたしたち会計事務所が代わりにそこまでキャッチアップできるのかといえば、いままではシステム分野のハードルが高かった。プログラム言語を知らなければいけない、システムの要件定義も考えなければならぬということがあり、なかなか手がかけられない状況



でした。しかし、クラウド会計ソフトが出てきて、さらには様々なサービスとの連携もしているため、いままでできなかったことができるようになってくる。これを使えばリアルタイムで経営状況が把握できますよとか、これまでは出来なかったご提案もできるのではないかと考えています。クラウド会計は遅かれ早かれ広がり、中小・中堅企業の重要なイ

ンフラになっていくと思います。これを使うことでいままでできなかったことができるようになる。いままで苦労していたことから開放される。ユーザーの利便性を高める技術。クラウド会計というものはそういうインフラだと思います。わたしたちの使命は、お客様の利便性を高めること。本来やるべき業務に専念していただく、できるだけ生産性を高めてもらう、それをお助けするのがわたしたちの仕事であり使命です。よって、わたしたち会計事務所もクラウド会計ソフトを広めていく役割を担っているのかなと思っています。

丸山様：わたしたち会計事務所は中小・中堅企業にとって、いちばん身近な存在、相談相手、知恵袋なのだと思います。先行者だけがクラウド会計ソフトを使って業務改善をするのではなく、世の中の会計事務所がみんなで取り入れて、中小・中堅企業のために頑張っていく。そしてお互いが WinWin になる。freee、会計事務所、顧問先様それぞれがハッピーになれる仕組み。freee は社会的インフラシステムなのだと思います。



アタックスグループ

東京事務所
(2016年7月10日に移転いたします。)
現所在地：東京都千代田区内神田 1-13-7
四国ビル
新住所：東京都千代田区神田神保町 1-105
神保町三井ビルディング 16F
電話：03-3518-6363

大阪事務所
所在地：大阪市北区西天満 2-6-8
堂島ビルヂング 2F
電話：06-6364-1350

名古屋事務所
所在地：名古屋市中村区名駅 5-27-13
名駅錦橋ビル
電話：052-586-8811

静岡事務所
所在地：静岡市葵区御幸町 11-30
エクセルワード静岡ビル 12F
電話：054-205-8180

仙台北出張所
所在地：仙台市青葉区中央 1-2-3
仙台マークワンセンター 19F
電話：090-1988-4304



カウシード税理士法人
代表 / 公認会計士 / 税理士 / 行政書士

上 藺 朗 様



free で、業務効率化と分業化を促進。 全国各地から新規の問い合わせも増えています。

interview by free

わたしたちは、大手監査法人出身の公認会計士が中心になって設立した会計事務所です。クラウドを使われる顧問先様には、ネットショップや IT 関係の方が多く、法人のお客様も多くいらっしゃいます。

free を導入したきっかけは？

かつて、新規のお客様のもとへ営業に行った際に、そのお客様は「free というソフトを使っています。」とおっしゃっていました。そのときはよくわからなかったのですが、インストール型の会計ソフトをおすすめしたのですが、結局 free を使っている別の会計事務所と顧問契約をすることになったという連絡をうけました。

それがきっかけとなって、free を調べたときに、認定アドバイザー制度も知ったのであわせて登録しました。

そのときは仕事になりませんでした

が、今後はそうしたニーズもでてくるのかなあと思いましたので実際に使い始めました。最初の頃は、会計事務所ほとんど使っている人がいなかったのですが、どういふうに使っていいかわかりませんでした。そのため、まずは、2013年の自分の確定申告を freeで行ってみました。

今になって考えてみると、free はお客様の方からお問い合わせが来るのが圧倒的に多いんですね。会計事務所側から提案することはありませんが、お客様の方から free を使いたいただけど、という声が多いということは、潜在的にも free を使いたいというニーズは多いのだと確信しています。

導入してみて感じた変化

3年前に使い始めた時は、正直な所お客様におすすめするにはちょっと...、という感じでした。しかし今では、これま

であったインストール型よりも進んでいるように思えます。

従来は、入力もこちらで行い、入力が終わったらそのデータをお客様にお送りして見てもらって、なにかあれば質問をもらうということがほとんどでした。当然時間も手間もかかります。free を入れてからは、仮にこちら側が入力したとしても、それをリアルタイムでお客様に見てもらえるので、お客様も喜んでいきます。同期、自動取り込みが多いので、だいぶ入力作業工数も減っています。

顧問先とのコミュニケーションクラウド会計ソフトで、顧問先とのつきあい方も変わっています。以前はデータをメールでやりとりしていましたが、free の中でやり取りが増えています。こちらが丸抱えで受けている顧問先様においても、今までは領収書のコピーと通帳のコピーを送ってもらい、こちらで入力していた作業が、先方でスキャンし取



り込んでもらってファイルボックスへ入れてもらうフローになり、データのやり取り作業がほとんどなくなりました。質問などはコメント機能や電話でのやりとりで済んでいます。

会計事務所のメリット

取引と証憑がクラウド上で紐づくことにより、チェックがしやすくなりました。いままで紙だった時は、仕訳の内容を確認して「何かな？」と思ったときにその証憑をさがさなくてはなりませんでした。紐付いていけばクリックするだけで、それを見ることができます。事務所内は分業体制をとっていて、入力担当者が入力して別の人間がそれをチェックするため、業務効率の大幅な改善もたらされました。

クラウド会計が 新たな需要を生む可能性に期待

クラウド会計ソフトには、会計事務所なしでもできるイメージがあります。そのため、今まで独自の方法で適当にやっていた人が、簡単にできるならちゃんとやろうかなと思って、free を始めてみる。しかし、やってみたらよくわからなかったのでアドバイザーに頼もうかということになる。逆に、いままで会計事務所を使わなかった人が会計事務所を使うケースが増えるのではないかと、思っています。

実際に、free を使って今回から確定申告してみたいという問い合わせや、

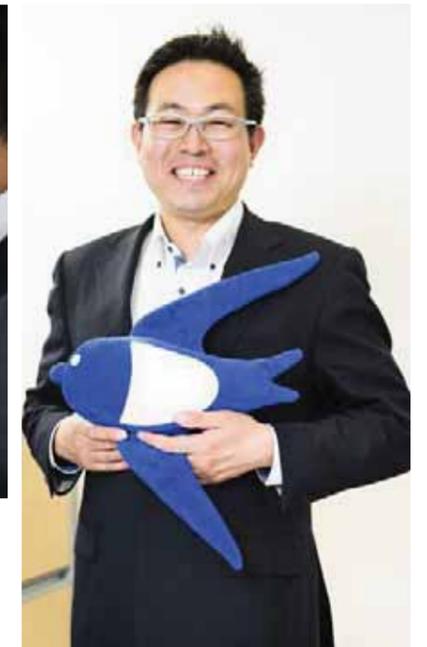
最初は自分で法人決算をしてみようと始めたものの、結局取り込みだけ自分でやるのではとやってみてもらえませんか、といった相談も全国から舞い込んできています。

free は導入のハードルが低く初心者でも簡単に操作できてしまう反面、間違ったまま進めてしまうケースがよく見られます。だから、専門家による最初の導入サポート（使い方のレクチャーとルール付け）は必要だと思いますし、会計事務所のニーズが増えていく可能性を大いに感じています。

国境を越えた 会計業務の効率化

会計事務所の置かれている状況として、新規のお客様が少ないために、競争が激しくなっているな、という実感がありません。規模の大きなところが強く、わたしたちのような規模の小さいところは何か特徴をもたせないといけない。

ひとつは事務所を大きくしてスケールメリットを出すこと。もうひとつがクラウド会計化です。とくに去年あたりからクラウド会計が目立つようになってきましたが、実際に使っている顧問先様の導入はまだまだこれからです。わたしたち



は、早くからクラウド会計化の波のついで、お客様のニーズを掴むとともに、事務所の効率化、分業化にも役立てたいのです。請求や給与計算、経費精算など、いままでだとそれぞれが単体で動いていたものがクラウド上でつながれば、手間は減りますし、ミスも少なくなる。従来からあった単純業務を減らし、複雑な業務や経営コンサルティングを行い、付加価値を高めていきたいと考えています。また、わたしたちはミャンマーにも会計事務所をもっています。クラウドであれば、そうした離れた拠点との協業、分業もスムーズに行えるのではないかと考えています。

会計事務所として、会計ソフトを何にするかまだ定まっていますが、複数の会計ソフトを使っていると事務所内の効率化がはかりにくくなるので、できるだけ統一していきたいと考えています。今はまだ、全てクラウドにしてくださいとはいえないため、しばらくは従来型の会計ソフトとの並走が続きます。しかし、ゆくゆくはできるだけクラウド会計に一本化していきたいと考えています

カウシード税理士法人

所在地：神奈川県川崎市中原区丸子通
1-636-4 朝日多摩川ビル 204
電話：044-789-9330

会計コンサルティング会社である「カウシードコンサルティング株式会社」とミャンマー進出をサポートする「ミャンマービジネスサポート」を併設。カウシード税理士法人は、新規開業の支援を得意としており、創業融資や助成金の支援、クラウド会計ソフトの導入支援も積極的に行っている。



河村浩靖公認会計士税理士事務所
代表 / 公認会計士 / 税理士

河村 浩靖 様



NPO 法人を会計面から支援することで、社会的意義のある活動を支えていきたい。

interview by free 

free は、入力が簡単で NPO 法人の方にとって利用しやすいソフトなので、NPO 法人の会計業務を大きく変えられると思っています。

free を導入したきっかけは？

NPO 法人は、その公益性から情報開示が強く要請されており、中でも会計情報の開示は重視されています。しかし、少ない人員・資金で事業を行っている多くの法人にとって、会計業務に費やせる時間は限られ、気軽に頼れる専門家を見つけることも難しいため、「会計」は大きな悩みの種です。これまで支援してきた実感から、NPO 法人を取り巻く会計環境は「会計砂漠」と表現してもいいかと思っています。このような「負担感」と実際の会計業務の「負担」が、「高い志」「本業」を圧迫するようなことがあってはもったいない。であれば私の専門性でこの状況を変えていきたいと考え、事務所の中心業務に「NPO 法人支援」を据え、

現在は free 認定アドバイザーとして、NPO 法人の会計業務を支援しています。

既存の会計ソフトには、NPO 法人に特化したものもあります。ただ、その多くは料金（価格）が高いため、資金的に余裕がない NPO 法人が気軽に選べる選択肢ではありません。

その点 free は、本格的な会計ソフトでありながら、料金が手ごろで入力が簡単。自動化機能によって入力の手間も大幅に削減できますので、その点に非常に魅力を感じました。

NPO 法人特化の会計事務所としてのやりがい

NPO 法人の方って優秀な方が多いのですが、反面とってもピュアなんです。少し変な話、専門家としては当たり前の質問に答えても、異常なくらい感謝されるんです（笑）

以前、教育関係の活動をされている NPO 法人の方が勘定科目でお悩みだっ

たので、その相談にのったことがありました。正直な所、そこまで難しい相談ではなかったのですが、後日メールでビックリマークが大量についた感謝のメールをいただいたことがあります。文面からも感謝の気持ちが非常に伝わってくる内容で、私自身少しうっ、としてしまいました。

NPO 法人を運営されている方は、本当に社会的に意義があることをされています。教育・医療・福祉・震災ボランティア等、その活動は多岐にわたっており、公的機関がカバーしきれていない制度の枠組みから外れる領域を民間の力でカバーしています。

一方で、本業の活動に関しては非常に優秀ではあるけれども管理業務全般、特に会計業務は苦手、という方が多いと感じています。

彼らの素晴らしい活動を、会計の専門家としてサポートすることが出来る、これは何事にも代えがたいやりがいがあります。

社会のインフラである会計の専門家としての責務、社会貢献という意味で、NPO 法人への会計業務のサポートは今後も続けていきたいと思っています。

free と NPO 法人の親和性

free と NPO 法人は非常に親和性が高いと思っています。まずは会計の知識がなくても利用できること、これは非常に大きいです。free はあえて簿記の用語を全面に出していないと思いますが、これは会計の知識がないことが多い NPO 法人の方に非常に喜ばれています。

またクラウドであるため、特定の PC でなければ出来ないということがなく、スキマ時間で会計業務を行うことが出来ます。本業が忙しい方ばかりなので、移動時間等にババッと帳簿付けが出来るのでオススメです。

上記のように NPO 法人の方にとって使いやすいというメリットに加えて、非常に安価で利用することが出来ます。そのため、人的・資金的にあまり余裕がない NPO 法人の方にオススメ出来ますね。

free は NPO 法人の会計に特化したサービスではありませんが、2016 年 4 月に「free NPO キット」と題して、free と組み合わせることで、活動計算書といった NPO 法人特有の決算書の基礎的な数字を自動で計算出来るコンテンツを free さんと協同製作いたしました。

NPO キットを利用することで、NPO 法人特有の勘定科目を free に設定することが出来ます。また勘定科目を設定す



ることで、「事業費 / 管理費」を区分することができ、「活動計算書」や「注記」、「財産目録」など NPO 法人特有の開示書類は「free NPO キット」に附属されている決算テンプレートを利用することで基礎的な数字は自動で作成することが可能です。

NPO 法人とともに成長していく、経営パートナーとして

実は NPO 法人に対応している会計事務所って少ないんですよね。一方、NPO 法人の方は会計面で総合的に相談したいと思っているにも関わらず、相談出来る相手が少ないというのが現状です。

相談相手としては、必ずしも所長先生である必要はなく、会計の知識がある方であれば問題ないと思っています。そのため、例えば今税理士試験の勉強中の方だったり、これから独立を目指している方等にとっても、NPO 法人の支援は非常にオススメです。

規模が比較的小さいことが多いので、活動を行う上でのお金の流れを NPO 法

人の人と一緒に学ぶことが出来ますし、会計人としての見聞も広がると思います。

NPO 法人の方は優秀な方が多く、会計事務所としても良い意味で刺激を受けることが多いです。NPO 法人の方は会計事務所を決して下請けとして見ずに、ともに成長していく経営パートナーとして見てくれるため、同じ目線で活動を行うことが出来ます。

完全に NPO 法人特化にする必要はなく、まずは 1・2 社顧問先として支援していただくだけでも、今申し上げたことが実感いただけるのではないかと思います。一概にはいえないと思うのですが、日々の業務に忙殺されていると、会計事務所として本来やるべき業務、「お客様のために」という視点を忘れてしまいがちです。

こういった NPO 法人支援を行うことで、自分自身のモチベーション向上にもつながり、社会的な活動に自身の専門知識を使って貢献することも出来るため、本来やるべき「お客様のために」という視点を常に持ち続けることが出来るのではないのでしょうか。

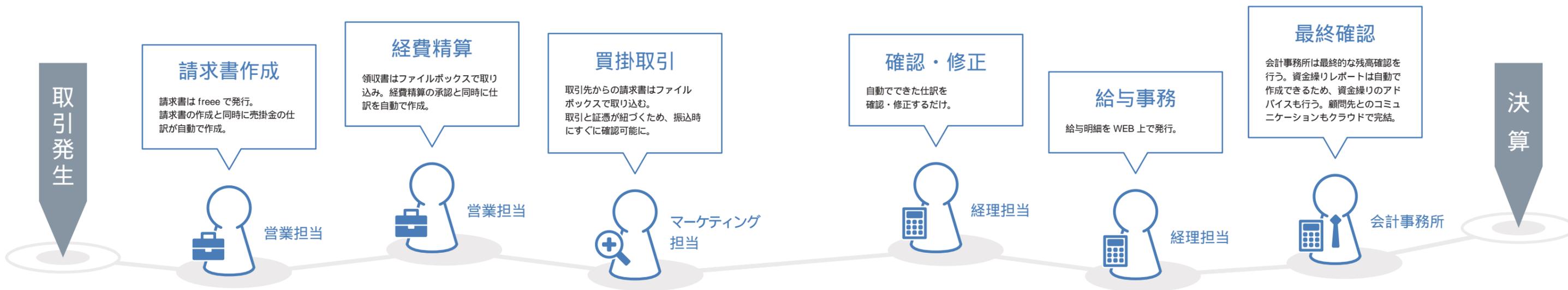
河村浩靖公認会計士税理士事務所

所在地：東京都千代田区麹町 6-2-6
ユニ麹町ビル 4F
電話：03-4330-2188

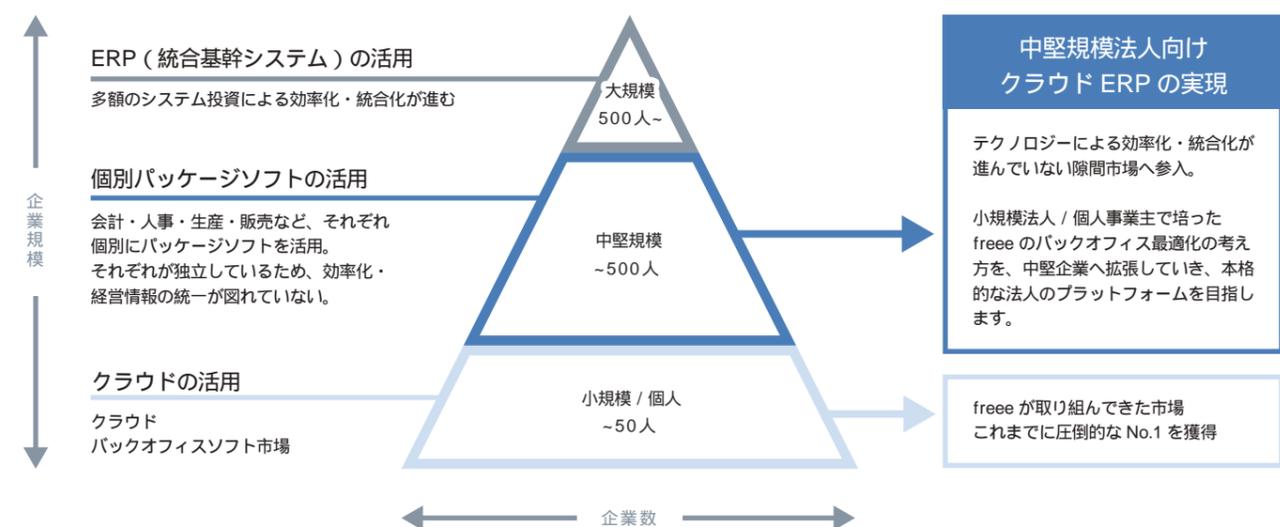
NPO 法人・社会福祉法人支援に特化した会計事務所。NPO 法人のディスクロージャーを全力で支援し、ディスクロージャー業務に対する不安・負担を取り除くことで、本業に集中できる時間を倍増させ、NPO 法人の社会課題解決力を最大化することをモットーとしている。

バックオフィスを効率化する "クラウド ERP"

業務の世界と会計の世界を統合。



free が新たに変革していく領域



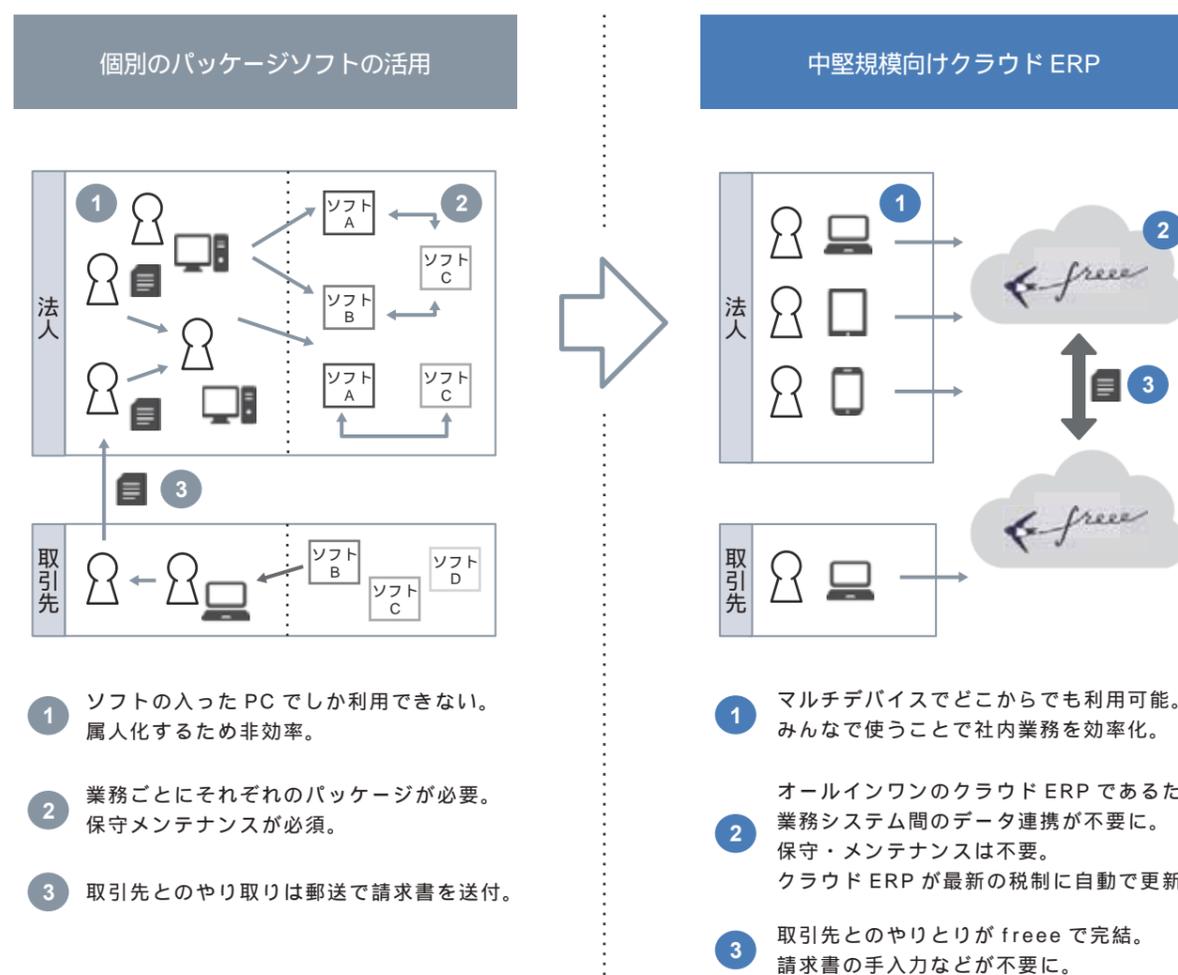
free のクラウド ERP の全貌

まずは free が得意としてきた財務会計・給与計算をコアとして進化させながら、部分的に実現していた管理会計・販売管理領域に進出します。

また、物流・生産領域は IoT の発展を睨んだ戦略的な投資をはじめます。既存のパッケージ製品では実現できないクラウドならではの方法で、中堅・中小法人の業務効率化を加速させていきます。



中堅規模向けクラウド ERP のコンセプト



- 1 ソフトの入った PC でしか利用できない。属人化するため非効率。
- 2 業務ごとにそれぞれのパッケージが必要。保守メンテナンスが必須。
- 3 取引先とのやり取りは郵送で請求書を送付。

- 1 マルチデバイスでどこからでも利用可能。みんなで使うことで社内業務を効率化。
- 2 オールインワンのクラウド ERP であるため、業務システム間のデータ連携が不要に。保守・メンテナンスは不要。クラウド ERP が最新の税制に自動で更新。
- 3 取引先とのやり取りが free で完結。請求書の手入力などが不要に。



WEB 制作会社

A 株式会社の場合

日々の帳簿付け

Web 制作会社である A 株式会社は請求書の作成作業が非常に多く、売上が案件毎に計上される。そのため freee の請求書機能を利用し、売上高の仕訳を自動記帳している。

売上の入金口座は freee に同期しておいたオンラインバンキングに設定しておくことで消込作業を自動化している。



会計事務所の確認方法

請求書の作成や消込作業は顧問先に freee で行ってもらう（自計化）。会計事務所は試算表や総勘定元帳・売掛レポートを確認し、売上の2重記帳や消込漏れ・入金督促すべき売掛金がないかを確認する。

ポイント

Web 制作会社といった BtoB 企業は、請求書の作成 売上の計上といったフローになることが多いため、売上の記帳を自動化することがオススメ。また請求書の入金を freee に同期したオンラインバンキングに設定しておくことで、消込作業も自動化することが出来る。会計事務所が最初に仕組みづくりを行ってくと顧問先も会計事務所も後々楽になる。

決算期日	決算額	決算日	決算額
2019-03-31	10,000,000	2019-03-31	10,000,000
2019-06-30	20,000,000	2019-06-30	20,000,000
2019-09-30	30,000,000	2019-09-30	30,000,000
2019-12-31	40,000,000	2019-12-31	40,000,000



飲食業

B 株式会社の場合

日々の帳簿付け

飲食業である B 株式会社は五反田に 1 店舗を構えている。POS レジは Air レジを利用し、また Square も併用して使うことでクレジットカードにも対応している。

Air レジと Square を freee に連携しておくことで、日々の売上データが freee に自動連携され、レジデータから売上高の転記作業が不要になった。

また Square からクレジットカード入金口座を freee に同期しておいたオンラインバンキングに設定しておくことで入金処理も自動化している。

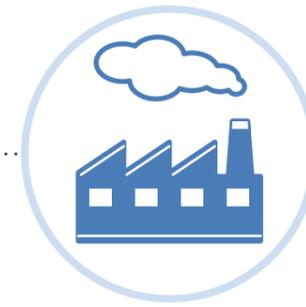


会計事務所の確認方法

Air レジと Square の連携設定・消費税の設定といった仕組みづくりを予め会計事務所が行っておく。その後、日々のレジ業務は顧問先が行い、その後 freee に取り込まれた売上数値を会計事務所が確認し、2重記帳や修正が必要なものは確認しておく。

ポイント

店舗型の飲食業の場合、レジ作業が発生するため、そのレジにある売上データをいかに会計ソフトへ自動連携させられるかがポイント。今回の例では Air レジと Square を利用し、売上の転記作業を自動化させている。



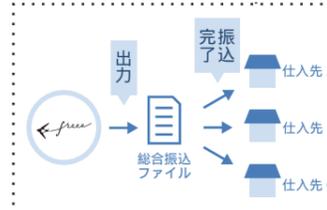
製造業

C 株式会社の場合

日々の帳簿付け

製造業である C 株式会社は従業員が非常に多くいる。また細かい部品の仕入が多く、仕入先が複数に渡るため、仕入代金の振込作業が非常に煩雑である。

そのため給与計算 freee を利用することで、従業員にはスマートフォンで勤怠を入力してもらい、その勤怠データをクラウド上で確認し給与を自動計算する。給与明細は Web 上で発行し、紙の印刷作業をなくす。また部品の仕入は総合振込ファイルを利用し、ワンクリックで振込作業を行い、消込も自動で経理から行う。

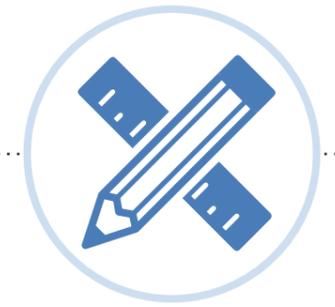


会計事務所の確認方法

顧問先の給与事務も引き受けるが、勤怠データ等は全て給与計算 freee に入力してもらうため、給与計算結果の確認作業及び年末調整等を会計事務所が行う。総合振込ファイルの作成は顧問先に行ってもらうが、総勘定元帳等を確認し、仕入の記帳漏れがないか等は会計事務所が行っておく。また全体を通して、上記の業務オペレーションの構築作業のサポートも会計事務所が行う。

ポイント

製造業は従業員数が多いため、給与計算は分業スタイルで行うと非常に効率化出来る。基本的にはスマートフォンで勤怠は完了させることで、顧問先の給与担当者も会計事務所も後の確認作業が楽になる。また振込作業も総合振込ファイルで完結する。可能であれば買掛レポートを確認し、支払漏れがないかといったアドバイスも行うと、付加価値提供にも繋がる。



フリーランス デザイナー

個人事業主 D さんの場合

日々の帳簿付け

取引は複雑ではないため、基本的にはオンラインバンキングやクレジットカードを同期し、自動で経理から帳簿付けを行う。またファイルボックスを利用し、領収書は日々の取引に紐付けておく。決算時は確定申告書類を freee から作成する。

会計事務所の確認方法

基本的には自計化の仕組みづくりを行い、月に1回程数字が問題ないか確認する。確定申告書類の作成作業は会計事務所がサポートを行う。

ポイント

法人に比べ取引はそこまで複雑でないため、顧問先が帳簿付けを簡単に出来る仕組みづくりを行うことがポイント。確定申告書の作成作業はサポートし、節税アドバイスも合わせて行う。



その他 業種 導入事例



建設業

小売業

NPO 法人

... など



株式会社ジャパンネット銀行
代表取締役社長

小村 充広 様



ジャパンネット銀行と freee との提携は スモールビジネスのお客様や 会計事務所へ大きな相乗効果をもたらす。

interview by freee

ジャパンネット銀行は 2000 年 10 月に、日本初のインターネット専業銀行としてスタートしました。主にご利用いただくのは、一般の個人のお客様やスモールビジネスのお客様で、提携アライアンスをベースに利便性の高い決済等をご提供しています。なぜ、提携が必要かというと、1+1=2 以上の相乗効果を生み出すことでの WinWin を目指すからです。一番の Win はご利用いただくお客様、そして提携先様とわれわれも Win になる。そんな関係を作っていきたいと考えています。

freee の掲げるバックオフィスの効率化 スモールビジネスに携わるすべての人が、創造的な活動にフォーカスできるようは、われわれの考え方と非常に似ています。スモールビジネスの経営者や起業家は、日本社会にとって、新たなビジネスモデルを創る可能性の高い方々です。そのような方々をわれわれもなんらかの形で支援していきたいと考えています。freee が提供するバックオ

フィスの効率化のように、決済やファイナンスをどれだけ手間ひまかけずに行えるようサポートできるか、ということを重要なミッションと捉えています。

スモールビジネスのお客様へ freee との連携が提供する効果

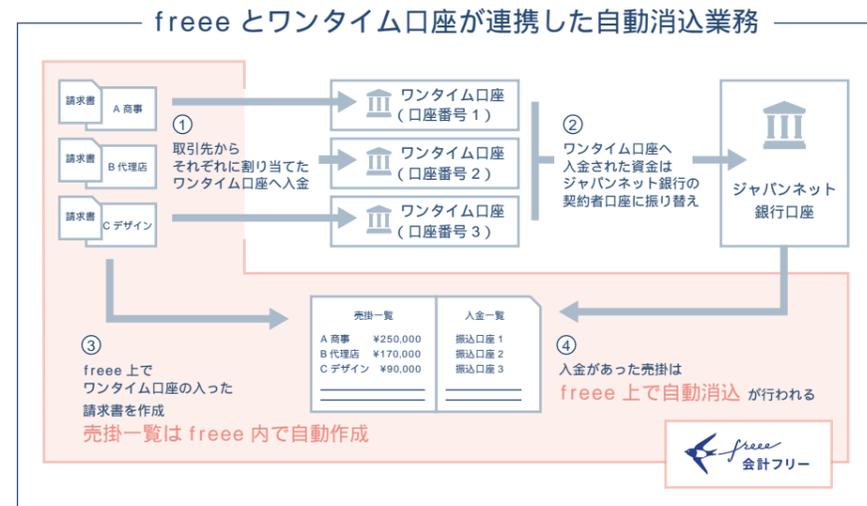
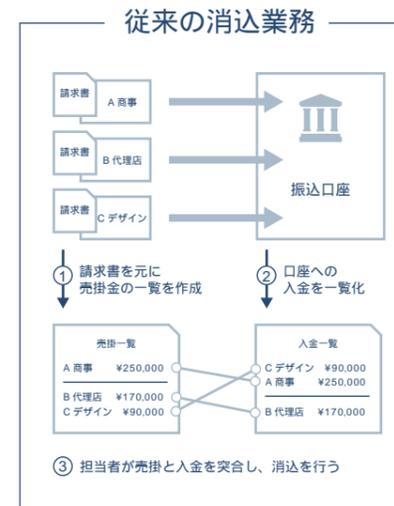
インターネットには様々な利便性がありますが、一番大切なのは「だれでも」平等に参加できるということではないでしょうか。店舗を持っている従来型の銀行はどうしても敷居が高く、大口を優先しがちです。また、お忙しいスモールビジネスのお客様が、平日 15 時まで銀行窓口に向き、番号札を引いて順番を待つことは難しく、その点、インターネット銀行には 24 時間 365 日、店舗へ出向かずに取引できる利便性があります。インターネット銀行は違う言い方をすれば、クラウドバンクと言えます。そのためクラウドバンキングとクラウド会計は極めて親和性が高い。決済、ファイナン

スにとって会計は表裏の関係なので、ここがうまくマッチングすれば、スモールビジネスのお客様の利便性はよりいっそう高まります。

クラウド上で、クラウド会計ソフトを使って自分の会社の経営状態を見る、あるいは分析して今後の経営に役立てる。加えて、金融についても済ませてしまう。そうしたことこそ本当に利便性が高いことといえるのだと思います。

ますます重要な位置づけになる 会計事務所

freee が日本のクラウド会計ソフトの中でも先進的だと感じるのは、請求書、給与計算、会計などの全てのバックオフィス作業を自動化しようとしている点です。企業活動は最終的に BS・PL に反映されます。銀行から見ると BS・PL の基本的な数値形成が自動化され、一定の正確性が担保されている会計ソフトは極めて信頼性が高いといえます。そして、



freee がバックオフィス周りの作業を freee で一元管理する「バックオフィス最適化」を目指しているところに今後の発展性を感じます。信頼性が高く、しかも自動的にできれば、BS・PL を通して、会計事務所やスモールビジネスの経営者が会社の業績を分析でき、気づきが得られる。どういう改善点があるのか、的確に分析することが可能になります。このように、クラウド会計ソフトは利便性や分析手法に優れる画期的なものだと思います。しかし、この信頼性をもう一段担保する、リアルタイムで担保するという意味で、会計事務所の位置づけは極めて重要だと思います。経営者の気づいていない財務上の問題の指摘、経営アドバイスをすることは、経営者にとって非常に有益であるし、銀行にとっても会計事務所のチェックを受けているということは信頼性を担保するという点において非常に重要といえます。

ワンタイム口座と freee の 連携がもたらす新たな価値

大きなネットショップや回収代行の企業には、入金と売掛金の消込み作業を効率的に行いたいというニーズがありました。そこで、売掛金口座のリファレンスを口座番号として紐付けて、自動的に消込みを行えるようにしたのがワンタイム口座サービスです。これまでも、お客様からのご要望に応じて数々の改善を行ってききましたが、今回、freee とワンタイム口座を連携させることで会計ソフ

トと連携出来る初の本格的消し込みサービスを提供します。そこで、サービスの提供を始めた 2013 年以来、相当な月間トランザクションのあるお客様だけに限って提供してきたワンタイム口座サービスを、freee をお使いの一般の法人、個人事業主の方にも非常に低価格でご提供することにしました。このサービスを利用することで、たとえば、個人からの入金が多い BtoC のお客様において、同名同姓の振り込みや手数料を引かれて実際の請求と入金額が違うようなときに 1 件 1 件確認する手間が省けます。また、入金を確認して商品を提供するサービス事業者の方にとっては、一刻も早く入金確認し商品を送送することはビジネスのサイクルを早めますし、顧問先のビジネスを加速させる強みとなります。

freee との連携強化で目指す これからの方向性

ジャパンネット銀行は、スモールビジネスのお客様に大企業並みのサービスをウェブ上で完結できるようこれまで同様に提供し、さらなる拡充をしていきます。ワンタイム口座サービスに限らず freee のようなクラウド会計ソフトと実

際の資金の流れをうまくマッチングさせることで、クラウド上においてジャパンネット銀行との取引が終わることを目指しています。クラウドバンクとクラウド会計ソフトが 1 つのクラウド上で、すべて自動的に手を煩わすことなく、財務分析、各種レポート、それにとりまう決済、ファイナンスをあたかもすべて完結するような形にできれば、もっとスモールビジネスの方や会計事務所のご負担もなくなり、よりよいレポートができてくるようになります。

現在は freee とともに、ファイナンスの新たな方向性を検討中です。今後もセキュリティや VISA デビットなど、スモールビジネスのお客様に役立つ新たなサービスの提供に向け、さらなる連携強化を考えています。



株式会社ジャパンネット銀行

所在地：東京都新宿区西新宿 2-1-1
電話：03-3344-5234

日本初のインターネット専業銀行。新たな形態の銀行の第一号として、従来の銀行にないスピード感・創造性を発揮し、特に「お客さまの利便性向上」と「高度なセキュリティ確保」へのこだわりを持って、さまざまな商品やサービスの開発・提供に努めている。



Square 株式会社
カントリーマネージャー

水野 博商 様

PARTNERS
INTERVIEW
02

決済から会計まで、売り上げ集計作業も自動化。 サービスの親和性がもたらす、 さらなる「バックオフィスの最適化」

interview by free 

Square は、個人商店でも導入しやすいクレジットカード決済システムを、シンプルなアプリとクレジットカードリーダーで実現し、事業の立ち上げや運営、売上アップをサポートしています。

free が「バックオフィスの最適化」というコンセプトのもと、スモールビジネスが本業にフォーカスできるよう会計業務の効率化を推進するように、Square も「Make Commerce easy」(商業活動をかんたんに)というミッションを掲げ、商業活動の煩雑な業務の効率化につとめています。

小規模事業者の方が、
ご商売にフォーカスできるように

Square は共同創設者のジム・マック

ルビーの体験が出发点です。ガラス工芸作家でもあった彼は、自分の作品をアトリエで販売していました。しかし、個人ビジネスなのでカード決済システムを導入できませんでした。ただでさえアメリカはカード社会。1点が10万円を超えるような作品を現金決済で販売することは難しく、販売機会は失われました。

自分のような小さな商売を行うところはたくさんあるから、世の中には困っている人がたくさんあるはずだ。それをもっともっと解決していきたい。テクノロジーを使ってもっとかんたんにしていくことができたなら、どうやって決済を受け付けようとか、お金周りの心配はなく、余計なことに煩わされることなく自分の売りたいものをお客様に届けることに集中することができるようになる。本

来の商売に集中できる。彼ともう一人の共同創業者ジャック・ドーシーはそう考えました。

事業者様の利便性を高め、
会計事務所様の価値も高める

近年、インバウンド需要、外国人観光客の増加によりカード利用が増えているので、京都をはじめとする観光地ではカード決済のできる環境が急速に広がっています。

しかしながら、日本は現金社会とよく言われます。お店の人はカード決済がなくても商売は成り立つと思込んでいます。しかし実際はそうではありません。お客様の中にはポイント貯めている方もいればマイレージを貯めている方もい

る。カードを使いたいのに使えないということは、お客様にとって不便なことであり、お店の機会損失にもつながります。

そもそも、現金決済は会計処理に時間がかかります。1件1件手入力しなければならぬため手間がかかり、ミスが起こる可能性も高い。売上を締めした後、売上金を夜間金庫に預けるようならそれもまた面倒です。お店側にとってもデメリットがたくさんあるのです。その点、Square のカード決済であれば、店舗の売上は最短で翌営業日に自動で銀行に入金されます。POS レジをお使いなら、何がどれだけ売れたか、POS の商品情報まで連携できるようになります。さらに、free と連携することで、Square を利用して決済した売上はすべて free に自動的に取り込まれ、自動で売上として計上されます。面倒な売上の集計作業がすべて自動化されるのです。

1時間かかっていた締め時間が5分になったら、1ヶ月で約3日分のムダ作業が減ることになります。その分、もっと商売自体にフォーカスすることができるようになります。

入力代行までされている会計事務所様

でしたら、入力業務が自動化されることで、本来行いたかったアドバイザー業務に注力でき、その価値がより高まるのではないのでしょうか。

また、お店をされている方は日々忙しく、こうした便利なサービスをご存知ないことがありますから、会計業務の効率化についてご相談された場合の提案オプションの1つにもなり得るのではないかと考えています。

目新しさや楽しさ、いままでなかったサービスをこれからも

3年前、日本でサービスをローンチしたころ、電子署名が目新しかったことから、それをきっかけにお店の方がお客様と会話できるようになったという声をよく聞きました。

わたしたちは、いままでなかったものをつくることや、できなかったことをできるようにする。その仕組みづくりが得意です。やれなかったことをやることにこそ価値があり、いままでにないものを提供しない限り、お客様や社会には貢献できない。それを変わらぬポリシーとし

て、これからも新たなサービスを提供していこうと考えています。

すでに存在するサービスを使っている方に対して、わたしたちのほうが安いから使ってください、ということはいりません。いままで使えなかった人、困っていた人、こんなものがあればいいのという方に、Square のサービスを使っただけ、事業を成長させてもらいたいと考えています。

いままでカード決済を使えなかった方が使えるようになり、それが広がっていけば、カード決済業界もうれしいはずですし、お客様もうれしいはずです。お客様のビジネスが成長すると、わたしたちもうれしい。そのような好循環を生み出す世界をわたしたちはつくっていこうとしています。

現在、日本における Square のサービスは、決済と POS に限られていますが、今後は、さらなる利便性をもたらす新たなサービスを提供していきたい。free ともファイナンス面での連携をはかっていきたいと考えています。

Square 株式会社

電話：0120-190-445

メール：welcome_square@squareup.com

数千円の Square リーダーと無料のレジアプリを利用することで、スマホなどのモバイル端末がカード決済可能な POS レジに。シンプルな料金体系、最短翌営業日入金、売上データの確認など、スモールビジネスに必要な機能を提供している。



野口五丈公認会計士事務所
代表 / 公認会計士 / 税理士

野口 五丈 様

Kenpai 株式会社
代表取締役

飯田 貫 様

Special Cross Talk

interview by freee



立場は違っても、ころざしは同じ。 freee でつながるビジネスパートナー。

スタートアップ・ベンチャー企業支援のスペシャリストである野口先生と、その顧問先様、アイデアあふれる若き経営者の飯田様にビジネスへの想いや freee についてなど、お話しいただきました。

freee を導入したきっかけはなんですか？

飯田様：前の会計士さんから野口先生に変えるときに、給与計算ソフトを新しいものにしようとして検討していたんです。そんなときに、先生が freee を導入されていたことがきっかけです。

野口様：わたしは、遡ること3年くらい前、ちょうどクラウド会計という概念が出てきた頃に、勉強会に行ってそれがきっかけですね。当時はいまの2割くらいの機能しかありませんでしたが、われわれがこんな機能があるといいなぁと言いたい放題の要望を出すと、かなりのスピード感でどんどん機能改善してくれて。とても頼もしく思っています。(笑)

freee を使ってみていかがですか？

野口様：正直、はじめは仕事が減っちゃ

うんじゃないかなと思っていました。(笑) だけど、実際に使ってみると違いました。本来やりたくなかった入力などの付加価値の低い仕事が減るだけで、逆に本来やるべき経営支援などの業務に時間を割くことができるようになりました。

飯田様：外部システムとの連携が素晴らしい。コレが一番の魅力ですね。今まで通帳預金だったり、クレジットカードだったり、すべて手入力で会計していましたが、それが自動で連携されて、かつある程度仕分けしておくとも毎月それを記憶して次から入力を省略できたり。

野口様：自動取り込みって、想定はしていたんですけど、学習機能がスゴイですよ。どんどん、どんどん賢くなっていくので、freee を導入して最初の月は10時間かかっていたのが、翌月には9時間になり、8時間になり、と。どんどん作業効率が上がっていくので、使

えば使うほど入力が早くなっていく。非常にありがたいですね。

野口先生からのアドバイスやサービスで印象に残っていることは？

飯田様：ものづくり補助金を勧めていただいたことですね。当社は、IT アイデアを価値あるかたちにする、IT でのものづくりを行う会社ですから。

野口様：補助金についてお話をしてみたら、興味をお持ちのように見えました。それで制度を紹介してみたところ、「これは！」というプランを見せてくれた。このプランなら、ということで勇んで申請を行いました。

飯田様：正直、自分だけではプランへの思い入れが強すぎて客観的に見られない部分もありました。そこを先生に指摘いただき修正して、しっかりとしたプラン

を完成させることができました。現在は審査結果待ちの状態、ドキドキしながら結果を待っています。

毎日お忙しいですけど、プライベートで続けていることなどありますか？

飯田様：ジョギングですかね。(笑) 仕事次第なので時間はマチマチですが、週2で走っています。

野口様：わたしはテニスです。つい先日、会計士が集まる大会で準優勝しましたし、昨年も別の大会で準優勝しました。

飯田様：それはスゴイですね。(驚) あと、先日子どもと一緒にけん玉をはじめまして、これが、なかなかおもしろいです。同時にはじめたんですけど、子どもはどんどん上達して。(笑) けん玉をはじめた結果、100まで数えることもできるようになっていました。わたしとしては集中力を高める時などにいいなと思っています。

最後に今後のご展望をお聞かせください。

飯田様：いままでの会計士の先生方は、決算書を見せると、みな「もっと経費を

使ったほうがいい」とか、そんなことばかりでした。私が欲しかったのは、そんな節税アドバイスではなかったんです。会社をどう成長させていくべきか、いっしょに考えてくれそうな方を探していました。今回、理想的な先生に出会えたので、freee を使い、いっしょに成長していけたらと思っています。

野口様：独立前、会計事務所でもったいないなと思っていたんです。わたしたちは顧問先様の腹の中すべてを見せてもらっています。銀行にも見せていない情報をすべて見せてもらっているわけです。それなのに単に節税アドバイスというのは、もったいないな、と。せっかくなら、その情報を顧問先様への経営アドバイスに活かしたい。ずっと、そう考えていたんです。freee を使うことで、やりたかった業務、顧問先様との対話や経営支援などの業務に時間を使えるようになりましたので、これからも顧問先様や飯田さんの会社の未来をともに考えていきたいと思っています。



野口五丈公認会計士事務所

所在地：東京都渋谷区道玄坂 1-12-1 渋谷マークシティ W22 階

電話：03-4360-5480

スタートアップ・ベンチャー企業の支援に特化した会計事務所。会社と共に成長することをモットーとし、節税だけでなく、クラウド会計支援やベンチャーキャピタルからの資金調達、補助金申請支援(創業補助金、ものづくり補助金)が強い。

Kenpai 株式会社

所在地：東京都調布市深大寺南町 1-17-42

電話：042-455-5199

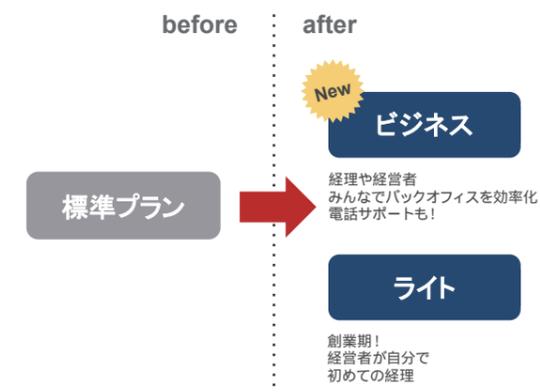
Web アプリケーション開発を中心に様々な分野で活躍している。脳波センサーと連動したクラウド・スマホアプリサービスの研究開発、ECパッケージ及びタイムセールECシステムの設計開発を行っている。

free の新料金プラン

2016年5月9日から、クラウド会計ソフト free の法人プランおよび個人事業主プランの体系が変わりました。それぞれのお客様ニーズに応じた機能をプランごとに搭載し、顧問先がお問い合わせいただける電話サポートなどもご用意しています。

法人向け新プラン

ビジネスの成長ステージに合わせ、最適なバックオフィス体制を。より幅広い中小企業様に free の価値をお届けします。

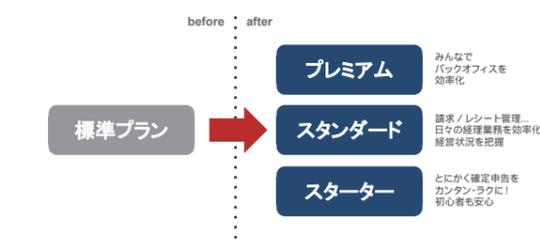


ライト	ビジネス
1,980円/月(税抜) 19,800円/年(税抜)	3,980円/月(税抜) 39,800円/年(税抜)
こんな人におすすめ! 創業期	こんな人におすすめ! 安定期・拡大期
<ul style="list-style-type: none"> 基本的な記帳機能 基本的な決算機能 基本的な請求書機能 管理者含めメンバー3人で利用可能 4人目以降は月額税込300円/人 	<ul style="list-style-type: none"> ライト全機能 管理者含めメンバー3人で利用可能 4人目以降は月額税込300円/人 権限管理・仕訳承認・仮締め 部門別会計 プロジェクト会計 定期請求・合算請求 資金繰りシミュレーション 予実管理(開発予定) 電子帳簿保存 経費精算
<ul style="list-style-type: none"> メールサポート チャットサポート 導入サポート 	<ul style="list-style-type: none"> メールサポート チャットサポート 導入サポート 電話サポート

既に「標準プラン」をご利用のお客様は、そのまま標準プランを継続してご利用可能です。

個人事業主向け新プラン

個人事業主の目的や属性に合わせ、最適なバックオフィス体制を。より幅広い個人事業主様に free の価値をお届けします。

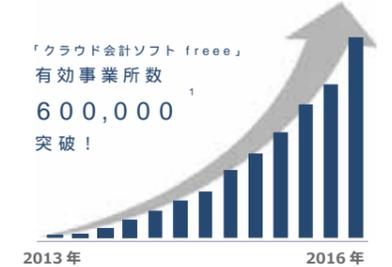


スターター	スタンダード	プレミアム
980円/月(税抜) 9,800円/年(税抜)	1,980円/月(税抜) 19,800円/年(税抜)	3,980円/月(税抜) 39,800円/年(税抜)
こんな人におすすめ! フリーランス、不動産オーナー、開業初年度	こんな人におすすめ! 複数店舗、多くの従業員、法人成り	こんな人におすすめ! フリーランス、不動産オーナー、開業初年度
<ul style="list-style-type: none"> 基本的な記帳機能 基本的な決算機能 確定申告機能 	<ul style="list-style-type: none"> スターター全機能 記帳の効率化機能 請求業務効率化機能 経営状況の把握機能 消費税込申告機能 	<ul style="list-style-type: none"> スタンダード全機能 電子帳簿保存機能 経費精算 予実管理(開発予定) 権限管理/仕訳承認機能
<ul style="list-style-type: none"> メールサポート チャットサポート 	<ul style="list-style-type: none"> メールサポート チャットサポート 	<ul style="list-style-type: none"> メールサポート チャットサポート 導入サポート 電話サポート

HISTORY



クラウド会計ソフト free が誕生して3年 free のプロダクトと実現してきたイノベーションの歴史



クラウド会計ソフトシェア NO.1²

43.7%

登録取引数

54,000,000

給与明細出力数

430,000

登録取引額

¥5,000,000,000,000

お客様からの感謝の言葉

40,000 messages

お客様満足度

94%

経理業務短縮時間

800,000 h³
=90years

認定アドバイザー数

2,700 advisers

free はこれまで合計 23 個の日本初を実現!!

2013年10月 日本初! レジへの売り上げ入力が自動反映される中小企業向け会計アプリに	2014年05月 日本初! 請求書機能と会計データが連携可能なクラウド会計ソフトに	2015年01月 日本初! 確定申告書類を自動作成する機能を公開	2015年02月 日本初! スマホだけで確定申告が可能にモバイル完結型社会の実現へ	2015年03月 「自動の「クラウド会計ソフト free」が誕生	2015年06月 日本初! 会計ソフトと連動した請求書作成可能なモバイルアプリ	2015年09月 日本初! 経費精算と給与計算の連携機能	2015年12月 日本初! 給与計算ソフト単体で法定三帳簿に対応
2014年11月 日本初! 税務ソフトと会計ソフトの web API を用いた連携 財務・税務システム「e-PAP (イー・パップ)」とのデータ連携	2015年05月 日本初! e-Gov API に対応クラウド完結型社会の実現へ!	2013年11月 認定アドバイザー制度をスタート	2014年04月 free の Android アプリが誕生	2014年10月 「クラウド給与計算ソフト free」が誕生	2015年06月 「会社設立 free」が誕生	2015年10月 「free for チーム」従業員向けアプリが誕生	

プロダクトの歴史

2013年03月 「自動の「クラウド会計ソフト free」が誕生	2014年02月 free の iPhone アプリが誕生	2014年10月 「クラウド給与計算ソフト free」が誕生	2015年09月 「マイナンバー管理 free」が誕生
2013年11月 認定アドバイザー制度をスタート	2014年04月 free の Android アプリが誕生	2015年06月 「会社設立 free」が誕生	2015年10月 「free for チーム」従業員向けアプリが誕生

1 有効事業所とは、「クラウド会計ソフト free」を実際に利用した事業所数のこと。free の他サ-ビス(クラウド給与計算ソフト free 等)を利用してはいるが、クラウド会計ソフト free の利用実績のないアカウントは除く。
2 2016年2月デジタルインパクト発表「第三回クラウド会計ソフトの 利用動向調査」より 3 free のユーザ-アンケートより算出

参加無料!

会計事務所様限定 セミナー・オフィス見学会のご案内

freeでは会計事務所様向けお役立ちセミナー・オフィス見学会を開催しております。
参加費無料となっておりますので、是非奮ってご参加下さい。

会計事務所のブランディング戦略

10年間で2,000を越える会計事務所を訪問した経験から、企業に対するブランディングが成功している会計事務所とそうでない事務所の違いを、事例満載で解説する。



開催日時：2016年6月27日(月) 13時～16時
開催場所：free株式会社 9階会議室（東京都品川区西五反田2-8-1 五反田ファーストビル9F）
定員：先着20名様
参加資格：free 認定アドバイザー

講師：中井 誠 氏（株式会社実務経営サービス 代表取締役）

大手電機メーカーのシステム情報機器部門の統括部長を経て、1998年株式会社実務経営サービスを設立。現在、全国970の会計事務所が参加する職業会計人の成長と発展を事務所の経営・運営という側面から支援することを目的とした「実務経営研究会」を立ち上げ、研修会、セミナー等で全国を飛びまわっている。

これからの会計事務所が安定した経営を行うためには？

開業2年2ヶ月で80社の税務顧問先を獲得した会計事務所の所長が具体的なノウハウ・事例を公開します。開業したけれど事務所の方向性を決めかねている、お客様がなかなか増えない、小さな顧問先でもいいから増やしたい、やってみたいと思うが本当にインターネットでお客様が増えるのか疑問、こういった疑問をお持ちの所長先生必聴です。



開催日時：2016年8月18日(木) 13時～16時
開催場所：free株式会社 9階会議室（東京都品川区西五反田2-8-1 五反田ファーストビル9F）
定員：先着20名様
参加資格：free 認定アドバイザー

講師：蔵田 陽一 氏（蔵田経営会計事務所 所長税理士）

アクセンチュア(株)戦略グループにて携帯電話会社等のプロジェクトに従事。都内2つの法人専門・資産税専門の会計事務所を経て税理士登録・独立開業。単なる経理・節税・申告書作成業務の枠を超えて、経営者がどのようにしたら豊かになれるかを常に追求し、経営者によって一人一人違う、夢の実現を手助けするために尽力している。

free オフィス見学会 & セミナー



卓球台、ビリヤード、会議室の名前に勘定科目の名前等、様々な特徴がある「freeのオフィス見学会」を実施いたします。プロダクトの目指す世界に加え、オフィスの要所を丁寧に説明させていただきますので、是非遊びにいらしてみませんか？ free 認定アドバイザーの事務所様からの講演も予定しています。

開催日時：2016年7月28日(木) 13時～16時
開催場所：free株式会社 9階会議室(東京都品川区西五反田2-8-1 五反田ファーストビル9F)
定員：先着20名様
参加資格：なし

お申込方法

会計事務所のブランディング戦略
<http://goo.gl/tQzZpE>

これからの会計事務所が安定した経営を行うためには？
<http://goo.gl/0UKyOo>

free オフィス見学会 & セミナー
<http://goo.gl/OpD7bf>



メール

参加希望セミナーの名称、事務所名、人数をご記載の上、ご連絡下さい。
advisor@free.co.jp



chatwork

下記アドレス宛にコンタクト申請の上、
参加希望セミナーの名称、事務所名、人数をご連絡下さい。
advisor@free.co.jp



はがき

同封のはがきに必要箇所をご記載の上、投函下さい。



WEB